

土地改良事業計画概要書

県営朝日池北部地区

区画整理(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

目 次

第1章 目 的	-----	1
第2章 地域の所在及び現況	-----	2
第1節 地 域	-----	2
第2節 地 積	-----	2
第3節 現 況	-----	3
第4節 地域環境の概況	-----	11
第3章 基本計画	-----	12
第1節 事業計画の要旨	-----	12
第2節 営農計画及び土地利用計画	-----	13
第3節 用水計画	-----	14
第4節 排水計画	-----	17
第5節 道路計画	-----	20
第6節 農用地造成計画	-----	20
第7節 農用地整備計画	-----	21
第4章 工事又は管理の要領	-----	23
第1節 工事の内容	-----	23
第2節 管理の要領	-----	23
第5章 換地計画の要領	-----	24
第6章 費用の概算	-----	26
第7章 効 用	-----	27
第8章 他の事業との関係	-----	28
第9章 計画概要図	-----	28

第1章 目的

本地区は、新潟県上越市の北部に位置し、高田平野北部の池沼群と東頸城丘陵の西縁の間に広がる農地を受益区域とする水田地帯であり、水稻を中心とした営農が展開されている。

これまでに地区内では中心経営体への農地集積が進められてきたが、現況の生産基盤が12 a 程度と小区画であるうえ、農道が狭く、大型機械による効率的な営農の妨げとなっている。また、排水路は過去に整備した用排兼用水路高を利用してため渠底が高く効率的に排水できず、一部ほ場は排水不良田となっている。暗渠排水の老朽化により畑作物の取組拡大が難しい。

このため、農地の大区画化や排水路の整備により生産性の高い優良農地を確保するとともに、担い手への農地集積・集約化を促進し、農業の効率化によるコスト低減と収益性の高い園芸作物の導入・拡大による所得向上を図り、安定した農業経営と農業の持続的発展を目指す。

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地域

事業名	地域
区画整理	新潟県上越市 大潟区内雁子、大潟区内雁子新田、吉川区長沢、吉川区神田町、吉川区梶

第2節 地積

(令和7年8月現在)

事業名	現況地目	田	畑	原野	山林	その他	計	備考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	上越市	141.4	0.4	0.1	—	16.4	158.3	
合計		141.4	0.4	0.1	—	16.4	158.3	

第3節 現 況

1. 気象及び海象

(1) 一般気象

観測所名	高田	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	1953年～2019年	5月～8月	9月～4月		
平均気温 (°C)		22.0	9.2	13.4	年平均値 (1953年～2019年:気象庁HPデータ)
降水量	平均 (mm)	638.5	2,243.0	2,881.5	月平均 240.1mm (1953年～2019年:水文統計資料[第14版])
	基準年 (mm)	413.0	2,275.5	2,688.5	月平均 224.0mm 計画基準年 1973年 (気象庁HPデータ)
降水日数	平均 (日)	50.7	157.9	208.6	月平均 17.4日 (1953年～2019年:水文統計資料[第14版])
	基準年(日)	46.0	166.0	212.0	月平均 17.7日 計画基準年 1973年 (気象庁HPデータ)
根雪期間		1月1日～3月13日 72日間			高田 1991年～2020年の平年値 (気象庁HPデータ)
無霜期間		4月15日～11月18日 218日間			高田 1991年～2007年の平年値 (気象庁HPデータ)
最多風向		南	最大風速 (風向)	23.1 m/s (南)	最多風向発生時期 1～5月、7～12月 最大風速発生年月日 1959年4月5日 (気象庁HPデータ)

(2) 特殊気象

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
高田																
観測期間	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	
1953年～2019年																
最大日雨量 (mm)	176.0	1985.7.8	1/30	173.5	2017.7.1	1/30	164.5	1985.11.8	1/20	160.3	1959.7.11	1/15	147.5	1999.9.15	1/10	気象庁HPデータ 1953年 ～2024年
最大時間雨量 (mm)	91.0	2006.10.29	—	64.1	1962.9.15	—	62.0	2022.8.13	—	60.5	1998.7.30	—	60.0	2016.7.27	—	気象庁HPデータ 1953年 ～2024年
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	897.5	1956.11.25 ～ 1956.12.28	1/100	824.0	2010.12.20 ～ 2011.2.1	1/50	816.5	1968.1.13 ～ 1968.2.17	1/50	718.5	2024.12.3 ～ 2024.12.31	1/40	682.5	1984.12.11 ～ 1985.1.8	1/30	気象庁HPデータ 1953年 ～2024年
最大連続干天日数 (日)	46	1994.7.3 ～ 1994.8.17	1/500	37	2023.7.20 ～ 2023.8.25	1/200	29	2010.7.16 ～ 2010.8.13	1/20	29	2018.7.8 ～ 2018.8.5	1/20	28	2000.7.26 ～ 2000.8.22	1/15	気象庁HPデータ 1953年 ～2024年

(3) 海象

該当なし

2. 地形、土質及び土壌

本地区は、新潟県上越市の北部に位置し、標高2.4m～4.6mの沖積平野である。
勾配は1/400～1/10,000となだらかな地形を成しており、平均地形勾配は1/850となっている。

(1) 地形

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高(m)		備考
		1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
区画整理	面積 (ha)	50.9	90.5	—	—	—	141.4	0.4	—	—	—	—	0.4	4.6	2.4	
	比率 (%)	36.0	64.0	—	—	—	100	100	—	—	—	—	100			
合計	面積 (ha)	50.9	90.5	—	—	—	141.4	0.4	—	—	—	—	0.4	—	—	
	比率 (%)	36.0	64.0	—	—	—	100	100	—	—	—	—	100			

(2) 地質及び土壌

本地区の土壌は、「D30強グライ土壌強粘土還元型」「D31強グライ土壌強粘土斑鉄型」である。

3. 水利状況

(1) 用水状況

本地区の用水は、農業用ため池の朝日池を水源とした朝日池揚水機場のほか、国営幹線排水路より反復水を利用した南部1号揚水機場より、加圧パイプラインにてかんがいしている。

(ア) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

(イ) 用水施設

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権等		延べ 取水量	備考
		500ha以上		500～100ha		100ha未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	m ³ /s	
区 画 整 理	揚水機	—	—	1	276.9	—	—	1	276.9	—	—	1	1.070 0.605	1.070	朝日池揚水機場
	揚水機	—	—	1	110.0	—	—	1	110.0	1	0.340 0.170	—	—	0.340	南部1号揚水機場
合 計		—	—	2	386.9	—	—	2	386.9	1	0.340 0.170	1	1.070 0.605	1.410	

※かんがい面積は地区外含む、上段：代掻期、下段：普通期

(ウ) 改修を要する施設一覧表

該当なし

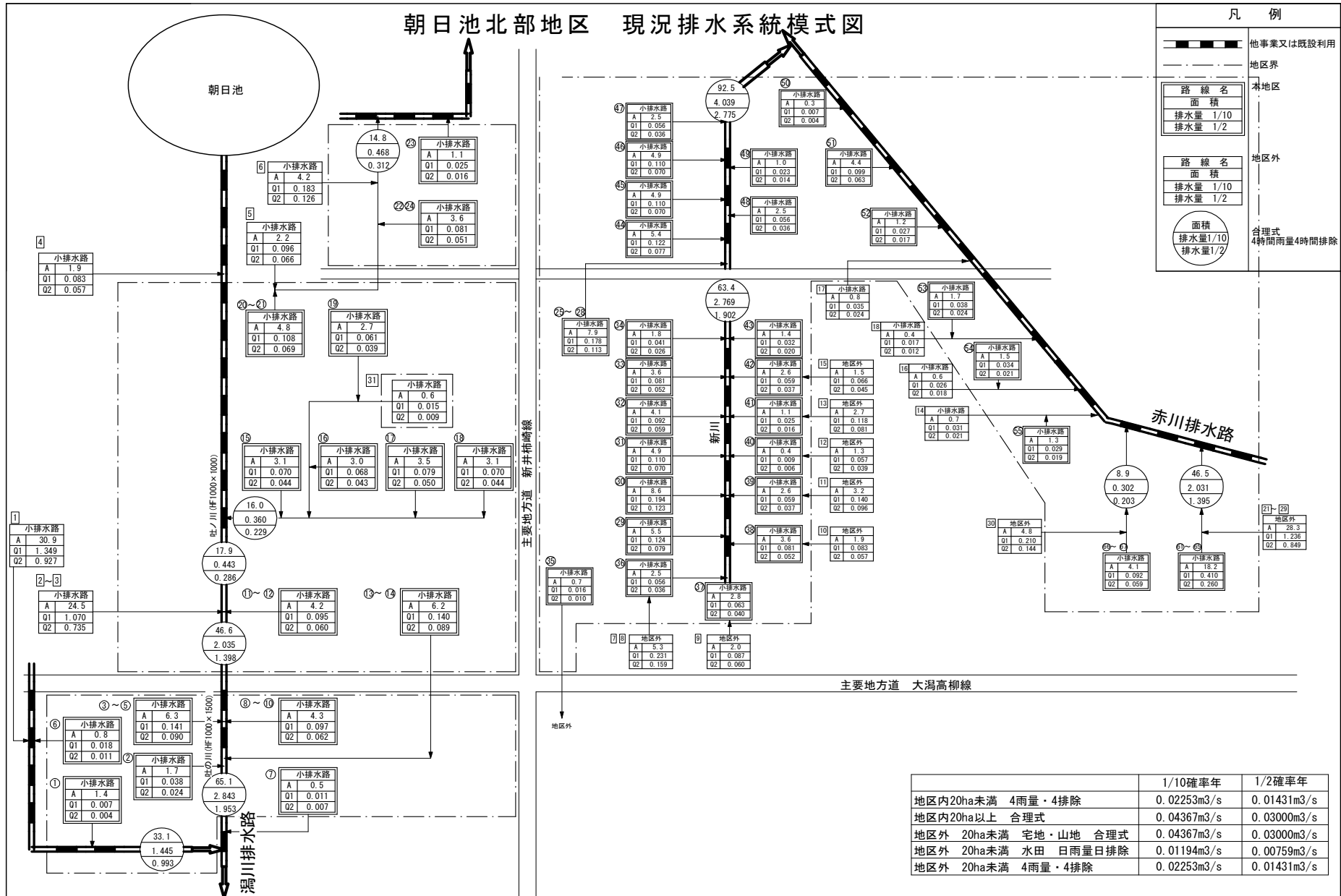
(2) 排水状況

本地区の排水は、地区内外の小排水路及び支線排水路を経て瀧川排水路、赤川排水路へ自然排水される。

(ア) 排水系統

現況排水系統模式図のとおり。

現況排水系統模式圖



(イ) 排水施設

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m ³ /s)		現況排水能力 (m ³ /s)		備考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満								
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
区画整理	自然	支線排水路	—	—	—	—	2	98.2	2	98.2	—	—	—	—	鴻川排水路
		排水路	—	—	—	—	1	0.5	1	0.5	—	—	—	—	鴻川排水路
		支線排水路	—	—	—	—	1	92.5	1	92.5	—	—	—	—	赤川排水路
		排水路	—	—	—	—	9	68.3	9	68.3	—	—	—	—	赤川排水路
		排水路	—	—	—	—	3	16.6	3	16.6	—	—	—	—	既設排水路
合計		—	—	—	—	16	276.1	16	276.1	—	—	—	—		

※排水面積は地区外含む

(ウ) 改修を要する施設一覧表

該当なし

4. 河川状況

該当なし

5. 道路概況

本地区は主要地方道新井柿崎線、主要地方道大潟高柳線に隣接し、農産物の流通等に関する基盤が整っている。
地区内の農道は多数配置されているが、幅員が非常に狭く耕作機械のすれ違いや作物物資の搬入搬出などに支障を来している。

6. 営農状況

本地区は水稲を主とした営農が展開されており、担い手への農地集積を通じて経営規模の拡大が図られてきた。

しかし、現況の水田が12a程度と小規模であるうえ、農道が狭く、大型農業機械の作業効率を十分に発揮できないため、農地集積が進まない状況にある。

さらに、排水不良により水田が湿田化しており、農地の汎用化や高度利用を妨げる要因となっている。

第4節 地域環境の概況

本地区は、新潟県上越市の北部に位置し、高田平野北部の池沼群と東頸城丘陵の西縁の間に広がる農地を受益区域とする水田地帯であり、水稲を中心とした営農が展開されている。日本海にほど近く、海岸付近には、石油・天然ガスの採掘時に湧き出た「鵜の浜温泉」があり、温泉街が形成されている。

地区の用水源でもある朝日池は、砂丘と沖積平野の境のくぼみに湧き水が溜まった池をかんがい用に整備したもので、農林水産省の「ため池百選」にも選ばれている。また、朝日池の一部は「新潟県立大潟水と森公園」に含まれており、ハクガンをはじめとしたマガン、オオヒシクイなど水鳥の飛来地として知られている。

第3章 基本計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要旨

区画の拡大及び農道の整備を行い大型機械化農業に対応する。用排水路は水管理及び維持管理の負荷軽減を考慮して再編し、暗渠排水施工により耕地の汎用化を行う。

これにより、担い手への農地の集積・集約化から経営規模の拡大を図り、生産コストの低減や園芸作物の導入による所得向上を可能にし、効率的かつ安定的な農業経営を確保する。

2. 事業別面積

事業目的	事業名	区画整理					計 (ha)	備考
	土地利用区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	小計 (ha)		
区画整理		133.7	0.2	—	—	133.9	133.9	
計		133.7	0.2	—	—	133.9	133.9	

3. 環境との調和への配慮

本地区は、大潟区農村環境計画では「農業生産エリア」、吉川区農村環境計画では「近代農業推進エリア」に位置づけられ、効率的で持続可能な農業生産と、環境との調和を考慮した整備事業が求められる区域である。

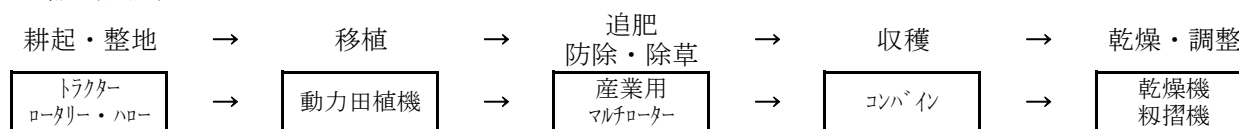
調査の結果、地区内の排水路には多様な生物が確認されており、豊かな自然環境が窺える。しかし、本事業によりこれらの生息環境の変化が懸念されるため、生態系に配慮した対策が必要である。

そのため、集落に近い開水路計画区域の排水路を環境保全水路として計画し、生物が生息するために適した環境を確保するとともに、生態系との調和を図る。

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

- a) 経営方針 水稲転作複合 水稲＋露地野菜作経営(えだまめ、ブロッコリー、ばれいしょ)
- b) 経営組織 農業生産基盤の整備により水田の高度利用を可能にし、近代的で効率的な農業の確立を目指す。
農地集積・集約化により経営規模の拡大を図り、園芸作物導入による安定的な農業経営と本地域の農業競争力強化を図る。
- c) 作業体系 水稲(法人)



2. 土地利用区分

事業名	土地利用区分	耕地							採草放牧地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の樹園地 (ha)	小計						
区画整理	現況	141.4	0.4	—	—	—	—	141.8	—	0.1	—	16.4	158.3	
	計画	133.7	0.2	—	—	—	—	133.9	—	—	—	24.4	158.3	
計	現況	141.4	0.4	—	—	—	—	141.8	—	0.1	—	16.4	158.3	
	計画	133.7	0.2	—	—	—	—	133.9	—	—	—	24.4	158.3	

第3節 用水計画

1. 計画基準年

本地区の計画基準年は、既整備済受益地の一部であることから「県営かんがい排水事業 潟川地区」の計画基準年に準じた。

計画基準年：昭和48年（1973年）

2. 計画かんがい方式

（1）かんがい期間

水 稲：5月6日～8月20日（代掻き 5月6日～5月12日）

畑作物： _____

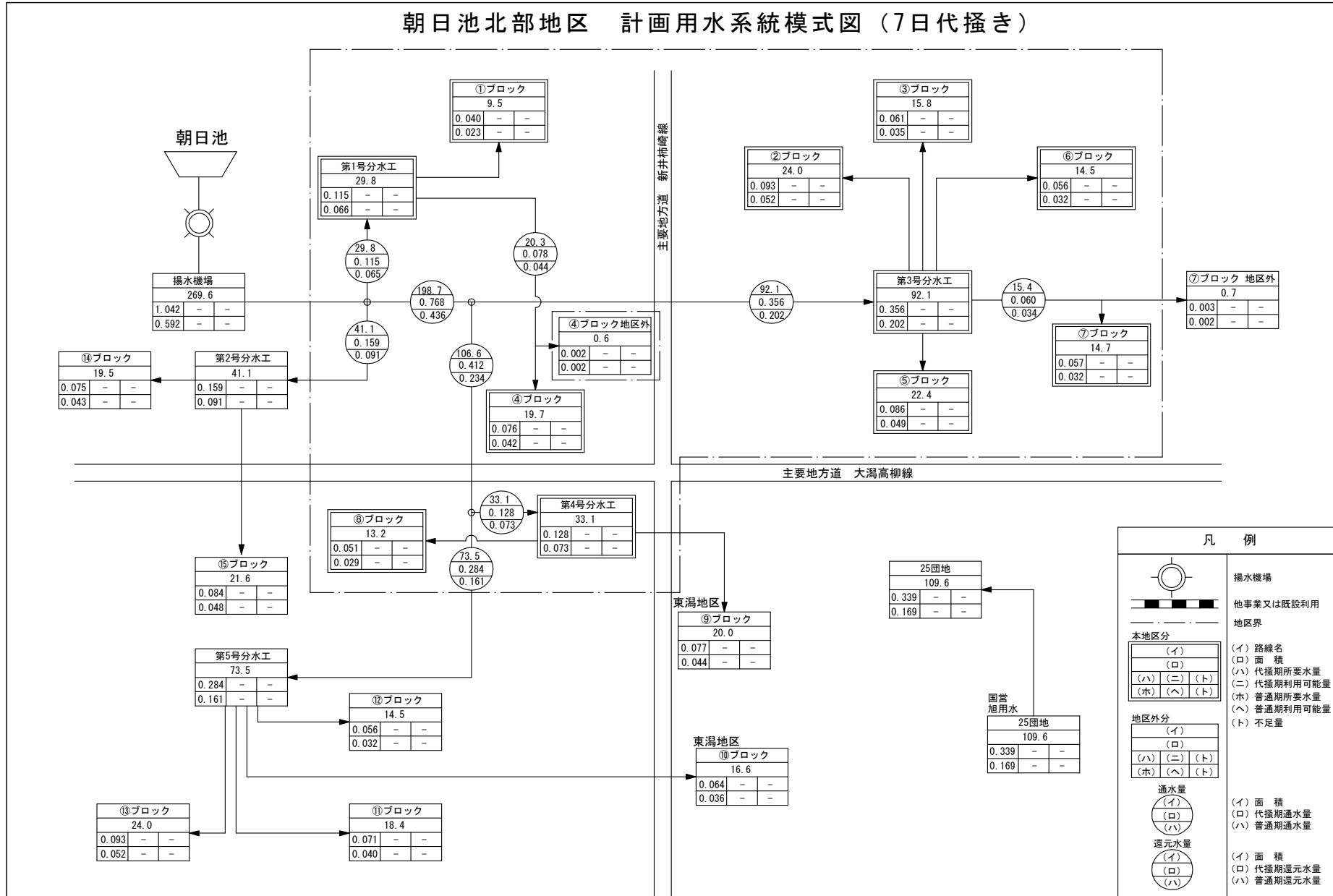
（2）かんがい方式

地区内は、朝日池揚水機場からの加圧パイプライン方式とする。

3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。

朝日池北部地区 計画用水系統模式図 (7日代掻き)



4. 計画用水量

系統名	項目	種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m³/s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
			事業名		普通期	代かき期	面積	一日当たり計画 平均かん水深	平均 間断日数	面積	一日当たり計画 平均かん水深	平均 間断日数	面積	単 位 計 画 平 均 水 量	面 積			平均	最大	
			区 画 整 理	単 位 計 画 平 均 水 量 (mm)																
					積	積	積													
朝日池	農業用水	133.7	(17.0) 14.0	150.0	133.7	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.465) 0.264	10	—	(0.517) 0.293	()内は 代掻き期		
計		133.7			133.7	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.465) 0.264		—	(0.517) 0.293	〃		

5. 水源計画

(1) 水利用計画

区分	項目	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源工種	備考
						水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
区 画 整 理	水田かんがい	2,161	—	2,161	2,401	朝日池	2,537	2,537	—	—	—	—	—	10%
	計	2,161	—	2,161	2,401		2,537	2,537	—	—				—

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

観測所名：大潟 1978年(昭和53年)～2022年(令和4年)

水文資料：新潟県農地部(令和5年度県営調査計画地区における降雨強度算定結果について [通知] R5.9)

1/2確率年 82.0 mm/day

1/10確率年 129.0 mm/day

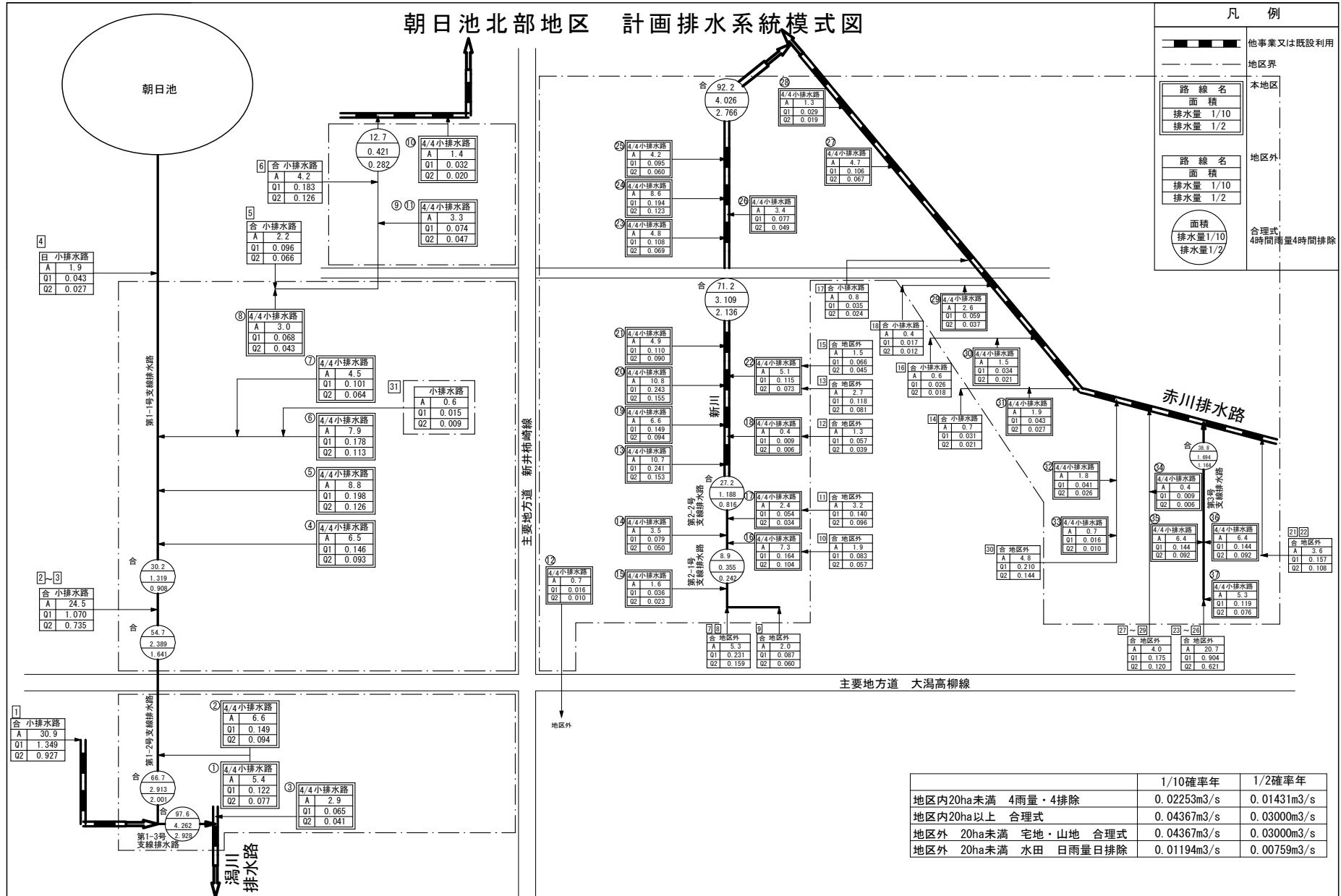
2. 計画排水方式

本地区の排水は、地区内外の小排水路及び支線排水路を経て潟川排水路及び赤川排水路へ自然排水される。

3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

計画排水系統模式図



4. 計画排水量

排水系統名	項目	流域面積		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備考
	受益面積 (ha)	流域面積 (km ²)			降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		山地	平地		単位排水量 (m ³ /s/km ²)		
										事業名	区画整理			
	自然排水	機械排水	山地		平地									
支線排水路	34.3	0.579	0.397	39.3	4.367	4.367	—	—	2.528	1.734	—	4.367	4.367	瀧川排水路
小排水路	2.4	—	0.029	81.1	—	2.253	—	—	—	0.065	—	—	2.253	瀧川排水路
支線排水路	64.7	0.179	0.743	39.3	4.367	4.367	—	—	0.782	3.245	—	4.367	4.367	赤川排水路
小排水路	26.3	0.356	0.330	39.3 81.1	4.367	2.253	—	—	1.555	1.098	—	4.367	2.253	赤川排水路
小排水路	5.7	0.064	0.077	39.3 129.0	4.367	1.194~ 4.367	—	—	0.279	0.174	—	4.367	1.194~ 4.367	既設排水路
小排水路	0.5	—	0.007	81.1	—	2.253	—	—	—	0.016	—	—	2.253	既設排水路
計	133.9	1.178	1.583	—	—	—	—	—	5.144	6.332	—	—	—	

基準雨量：上段 合理式、下段 4時間雨量4時間排除または日雨量日排除

第5節 道路計画

1. 道路

番号	路線名	項目	幅(有効) (m) × 延長 (km)	構造	既設道路との関係	備考
1		支線道路	5.0(4.0) × 25.0	砂利舗装 転用土	県道及び市道と接続	
2		耕作道路	4.0(3.0) × 0.6	砂利舗装 転用土	—	

2. 索道

該当なし

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
210×90	1.0以上	114.2	85.3	0～0.5	
120×60	0.3～1.0	19.0	14.2	0～0.5	
端歩田	0.3未満	0.5	0.4	0～0.5	
整形	—	0.2	0.1	—	畑
計		133.9			

(2) 表土扱い

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備考
133.7	要：土壌調査の結果及び基盤切盛を行うため	15	200,550	

(3) 末端道水路配置図

該当なし

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

区分	項目	面積 (ha)		土壌統 (区) 名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 (% ₁₀ /s/ha)	計画後の地下 水位 (m)	集水渠出口以 下の排水方式	備考
		事業名							
		区画整理	計						
本暗渠		13.1	13.1	D30 強グライ土壌 強粘土還元型	50	5.8	0.5	自然排水	
本暗渠		120.6	120.6	D31 強グライ土壌 強粘土斑鉄型	50	5.8	0.5	自然排水	
計		133.7	133.7						

(2) 心土破碎

該当なし

3. 客土

該当なし

4. 農地保全

該当なし

第4章 工事又は管理の要領

第1節 工事の内容

項目 施設名	工事内容	事業量	規模・構造	備考
田整地	整地工	133.9 ha	標準区画210×90m、表土扱い15cm	
農道	道路工	25.6 km	支線道路5.0(4.0)m、耕作道路4.0(3.0)m、敷砂利	
用水路	用水路工	23.6 km	VUφ125～300mm、水管理省力化システム1.0式	
排水路	排水路工	17.4 km	VUφ200～600mm、HF300×300mm～HF1000×2000mm	
暗渠排水	暗渠排水工	133.7 ha	素焼陶管、塩ビ管φ75～125mm	

第2節 管理の要領

1. 管理者

施設名	管理者	備考
用水路、排水路、農道、ターン農道、水管理省力化システム	大潟あさひ土地改良区	

2. 管理方法に関する基本的事項

本事業において整備される施設については、大潟あさひ土地改良区が維持管理計画に基づき適正な管理を行う。

第5章 換地計画の要領

1. 換地計画樹立の必要性

当該事業は、土地改良法第2条第2項に基づく区画整理事業であり、農用地の集団化及び、地域農業の発展に資するよう換地計画を樹立する必要がある。

2. 換地計画樹立の基本方針

(1) 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記地積とする。ただし、上記の日から3か月以内に、測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接土地所有者の同意書を添付して申し出があった場合には、その申し出のあった地積とする。

(2) 農用地集団化の方法

換地区名	区分	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区		<p>◎集落別集団化 集落毎の出入作を解消し、集落単位の共同作業や農地の維持管理が容易となるよう、その権利者の属する集落単位に集団化を図る。</p> <p>◎地目別集団化 水田の中に混在する畑は、工事後に残す畑の希望面積を取りまとめ、できるだけ地区界周辺の不整形部分に集団化する。</p> <p>◎営農グループ集団化 地域の担い手（農業生産法人1法人）の経営農用地の面的な集積を積極的に推進する。</p>	各人の従前の土地が最も密集した位置を基礎とした上、育成すべき経営体の営農効率が向上するような合理的な土地利用計画を策定した後に換地選定を行い集団化を図る。	一戸当たりの団地数は、地目別集団化の範囲内において、地目ごとに概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔とする。

(3) 非農用地の換地方法

該当なし

(4) 清算の方法

増価額比例地積清算方式による。

3. 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

用途	区分	機能交換に係る土地 (ha)				一般国公有地 (ha)	合計 (ha)	備考
		国有地	都道府県有地	市町村有地	計			
道路、水路		-	0.2	16.2	16.4	-	16.4	
計		-	0.2	16.2	16.4	-	16.4	

4. 換地処分の特則

換地計画の対象となる区域内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分ができるものとする。

第6章 費用の概算

(単位：千円)

事業名等 区分	区画整理	合計	備 考
主 要 工 事	4,288,200	4,288,200	内工事雑費 71,470 内地方事務費 132,730
附 帯 工 事	—	—	
計	4,288,200	4,288,200	

(単位：千円)

事業名等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地 方 事 務 費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	—%	—%	100.0%	—%	—%	—%	100.0%	—%	—%
	負担金額	2,552,500	1,123,100	408,400	—	—	71,470	—	—	—	132,730	—	—
合計	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	—%	—%	100.0%	—%	—%	—%	100.0%	—%	—%
	負担金額	2,552,500	1,123,100	408,400	—	—	71,470	—	—	—	132,730	—	—

第 7 章 効 用

事業名等	項目 区分	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備 考
区 画 整 理	作物生産効果	99,220	15,586	総費用（現在価値化）＝ 4,288,378 千円 総便益（現在価値化）＝ 4,695,411 千円
	営農経費節減効果	145,437	151,293	
	維持管理費節減効果	△7,278	△1,071	総費用総便益比＝ $\frac{4,695,411}{4,288,378} = 1.09$ 増加所得償還率＝ $\frac{-}{165,808} \times 100 = -$
	耕作放棄防止効果	12	-	
	農業労働環境改善効果	2,678	-	
	景観・環境保全効果	879	-	
	国産農産物安定供給効果	16,254	-	
	計	257,202	165,808	
合 計	作物生産効果	99,220	15,586	
	営農経費節減効果	145,437	151,293	
	維持管理費節減効果	△7,278	△1,071	
	耕作放棄防止効果	12	-	
	農業労働環境改善効果	2,678	-	
	景観・環境保全効果	879	-	
	国産農産物安定供給効果	16,254	-	
	計	257,202	165,808	

第8章 他の事業との関係

該当なし

第9章 計画概要図

別紙図面のとおり。

令和8年度 新規採択希望(着工地区) 区画整理(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

あさひいけほくぶ
新潟県 朝日池北部地区 計画概要図

縮尺 1:15,000

凡 例	
色 別	名 称
	区画整理(田)
	区画整理(畑)
	暗渠排水
	計画用水路(管)
	計画排水路(開)
	計画排水路(管)
	既設用水路(管)
	既設排水路(開)
	県 道
	計 画 農 道

